

「卒業生も在生も MG SWers' DAY」(第二部) 開催報告

2026年1月

明治学院大学社会学部附属研究所 相談・研究部門

「卒業生も在生も MG SWers' DAY」の第二部は、通常の MG SWers'カフェ特別企画として「支援現場での「言いづらさ」を手放すために——Yes も No も大事にするためのアサーティブ・コミュニケーション講座」を開催しました。概要は以下の通りです。



◇開催概要

日時：2025年12月6日(土) 13:30～15:30

場所：社会学部附属研究所多目的ルーム

講師：竹沢昌子さん(特定非営利活動法人アサーティブ・

講師の竹沢昌子さん

ジャパン会員トレーナー/社会学部附属研究所ソーシャルワーカー・社会福祉士)

内容：アサーティブ・コミュニケーションに関するレクチャーおよびワークショップ

参加者：卒業生7名

第二部では、支援現場における「言いづらさ」や職員間の行き違いを手がかりに、自分も相手も大切にできるアサーティブ・コミュニケーションについて研修が行われました。

まず、導入として、参加者のみなさんに「日頃考えているコミュニケーションの課題」を共有してもらいました。たとえば、後輩との関係で、自身は仕事の進捗を報告するのは当然だと思っている一方で、後輩からは報告がないことなどが挙げられました。

研修では、うまくいかない伝え方の典型として、攻撃的(ドツカン) / 受身的(オロロ) / 作為的(ネッチー)といったコミュニケーションの「癖」が紹介されました。特定の型に当てはまる人がいるというよりは、誰もがドツカンになったりネッチーになったりするとの説明がありました。続いて利用者対応をめぐる職員間の方針の違いを題材に、参加者のみなさんに①攻撃的、②受身的、③アサーティブの3通りのロールプレイを見てもらいました。

この過程である参加者から、①の攻撃的な伝え方だと、「キャッチボール」ではなく、「ドッジボール」になってしまう、という感覚が共有されました。また、話している内容だけでなく、どのように話すのか(どちらかが立ったまま話すのか、二人が隣に座って話すのかなど)によっても、伝わる印象が異なるという意見がありました。振り返りでは、自分が前提としている考え方が相手の前提とは限らないこと、これまでお互いの考え方を十分な擦り合わせをしていなかったことに気づいた、などの感想が示されました。アンケートでは「相談する相手の聞く準備、環境にも配慮していきたい」といったご感想がありました。

引き続き、卒業生のみなさんに資する研修会を開催できればと思います。(ソーシャルワーカー 森香苗、竹沢昌子)